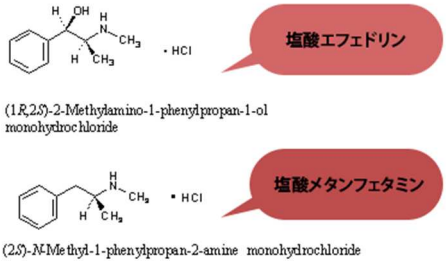
薬局通信

今月の花　麻黄（まおう）

風邪薬に配合されている生薬です。咳や気管支喘息に効果のあるエフェドリンや、鼻づまりに効果のあるプソイドエフェドリンを含んでいます。
草のように見えますが木で、葉は退化して小鱗片になっています。

分類：マオウ科/マオウ属
花色：黄色
原産地：中国北部
開花時期：5～6 月
花言葉：歓迎



天然エフェドリンは、1885 年に長井長義によって発見されました。その後、エフェドリンの瞳孔散大や血圧上昇作用などが明らかになりました。
アルカロイドの含有量が最も高いのは 7～11 月と言われています。
化学構造がメタンフェタミンに類似しているため、ドーピングの偽陽性反応に気を付けなければなりません。
学生の頃、徹夜で試験勉強した後に葛根湯を飲めば頭がさえるとまことしやかに言われていたことを思い出しました。
風邪薬ばかりではなく冷え性改善の漢方薬やダイエット効果で有名な方剤にも少量ですが含まれています。冷え改善効果や新陳代謝を高め温熱産生に寄与していると考えられます。

休み明け
机の書類に
桃の絶句

３月号

☆2 ページ目では・・・豆知識をご紹介いたします。

お問い合わせはこちらまで

佐世保記念病院・・・薬剤科 0956-28-111

春の花といえば・・・

春の花といえば「チューリップ」。生薬としても使われていたことは知っていますか？生薬名を「鬱金香（ウコンコウ)」，又は「鬱金香根（ウコンコウコン)」といいます。元々、花や鱗茎には、鎮静作用があり、乾燥した粉末をヒステリーに服用させて治すという治療に用いられていました。
悪心・嘔吐、呼吸抑制などの中毒症状がある為に現在は使われていません。

栽培農家の方々が茎などの切断面や汁に長時間触れることによって、指先などに重篤な接触皮膚炎を起こすことも有名な話ですよね。「チューリップフィンガー」で検索すると色々な情報が出ています。
毒性は一般的には弱いとされていますが、それぞれの部位にそれぞれの毒の成分が含まれていますので注意しましょう。

球根部には「ツリパリン」、花部には「チューリッピン」、茎部には「ツリピン」という毒素が含まれています。
ネーミングはかわいらしいのですが、心臓毒として血圧低下を招くことがあります。（特に球根部には湯注意です）
ガーデニングをするときには手袋を忘れずに直用した方がいいですね。

気を付けて！毒のある身近な植物

キノコや山菜などは気を付けている方も多いのではないでしょうか？
アジサイを口にしてしまうと「悪心・眩暈・顔面紅潮」などの中毒症状が現れることがあることは知っていますか？毒の成分ははっきりと解明されていませんが、人体に影響のある植物だとわかります。
ガーデニングや切り花でよく見かける植物のうち誤って口にしてはいけないものを紹介します。

1：カラー
　シュウ酸カルシウムが多く含まれるために、咽喉が炎症を起こして晴れ上がり窒息したり、呼吸困難などで死亡するケースもあります。ヒヤシンスも同様です。

2：アネモネ
　花屋さんの店頭でよく見かける花ですが、全部位に「プロトアネモニン」という毒の成分があります。茎から出る汁が皮膚炎や水疱を引き起こします。オダマキにも含まれています。

3：スズラン
　この花は毒のあることで有名ですよね？数種類の毒成分を含んでいて、致死量は青酸カリの 15 倍もの強さがあるともいわれています。切り花を挿しておいた水にも毒性が移行するため、そのものを誤食しなくても中毒を起こす可能性があります。症状は、消化器症状をはじめとして運動失調、徐脈、眩暈、心臓麻痺などがあげられます。

4：ダチュラ
　庭木としてよく見かける植物です。アルカロイドをすべての部位に高濃度に含んでいます。幻覚や倦怠感が起こります。別名を「キチガイアサガオ」、「マンダラゲ」ともいいます。

5：クリスマスローズ
　ヨーロッパでは矢毒に用いられていました。消化器症状をはじめ心拍数の低下や心停止を引き起こします。また、汁が皮膚につくとただれたり腫れたりします。

小さな子供さんやペットを飼っているご家庭では、特に気を付けたいものですね。